

巻頭言

外交史料館の活動を広めるために

外交史料館長 山本 英昭

二〇二四（令和六）年七月、外交史料館長に着任しました。同年には、麻布台ヒルズにおける新展示室の開室という外交史料館にとって特筆すべき出来事がありました。これについては本誌記事として掲載しましたが、四月に上川外務大臣主催で開催した開室式には多くの来賓にご参加いただき、改めて感謝申し上げます。館長に着任してからは、外交史を通じて日本外交への国民の皆さまの理解を促進する方途として、特に展示室に着目してきました。幸いにも都内の新しい複合施設内という「地の利」にも恵まれ、開室からわずか五か月で、見学者は一人を突破しました。見学者のアンケートを拝見すると、麻布台ヒルズへの来訪をきっかけに足を運ばれたという方々が多くを占めています。展示室見学者の日本外交への関心を如何に高めてもらうかの工夫に加え、当館展示室の見学を主目的とする方々を増やすことや、リピーターとして定期的に訪問したくなるような環境作りも、今後の課題だと認識しています。そのために例えば、中学・高校生向けの講座や教員への展示解説、大学生や一般向けセミナーなどの試みをより積極的に行うなど、教育連携を軸とする多角的なアプローチで、より多くの人々に外交史料館を活用していただけるような取組みも始めています。また、時宜を得つつ、より一層所蔵史料への関心を促すような企画展示を出来るだけ多く行うよう検討しています。もちろん、こうした展示による利用促進活動の土台をなすものとして、外交史料館が公文書管理法上の「国立公文書館等」としての役割を果たすべく日々積み重ねている、史料保存管理や閲覧利用対応といった努力の蓄積があることは言うまでもありません。また、アジア歴史資料センターへの協力や、一九三六年以降の『日本外交文書』の編纂作業を通じた外交経緯の調査も継続しています。

来年度以降も外交史料館とその活動をより多くの方々知っていただき、当館所蔵史料を国民の皆さまの知的財産として一層活用していただくために当館のチームワークを発揮して努めてまいりたい所存です。引き続き皆様のご支援とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

二〇二五年三月